てんぐ新聞

'12.8 No18
木屋平地域振興協議会
発行責任
0883-88-5292

またも遭難？？？騒ぎ

7月、天狗塚で、またも遭難騒ぎがあり、地元消防団や関係の交番員、消防救急車が出動することになりました。幸い、次の日、自力で尾根に出て、ヘリが発見し、一時ごろい救助出動に終わりました。単独で、十時頃登りはじめたと言う。当日は、午五百メートル位からガスっていましたどこをどう歩いてここまで来たか知りたい人が大勢四時頃、「迷った」と連絡があったそうです。ケイタイ気楽に山に登り、すぐに連絡するのが、すごく便利なのか、自然をなめてません人か。三千人位の救助にあたった人達は、仕事を終えて半日棒にふりました。

山野草と景色と

剣山のキレイデ当ウマも咲きはじめて七月末。少し遅れているが野草も夏を楽しむように多くが花を咲かせています。毎年出合う花でも、山の中で見れば、ハッとするが、初めて見ました。たまに会いました。

「てんぐ新聞」に載せてきたが、最近、少しばかり気が重くなります。ツルギハナウド(仮)の保護地が荒される様にぬき、時々抜かれる様にもり、今日も、剣山のリフクがイソイソウを載せましたけど、その為に自然を愛する人達の現実です。

風景でも同じことです。景色の良い場所を保って残したい思いもありますが、二の足をふみます。面白い岩や大木を良く新聞に載せれないのが残念です。

十年前は多くの草木がまっていた場所が、鹿だけでなく、登山愛好家の人達によって荒れてきているのです。

山が荒れているのは、登山者だけが原因でもありません山を生活の場所にしていた畑や田ぼがあったりした土地、利用しなくなったり、人工林や、杉、桧を植林したまま、手入れをしなく放置して、荒れてきているのです。いずれも、「人」の生き方、考え方が原因になっています。

遠くから眺めれば、緑一面の美しい山々がその中に入ってみれば、本来の森や林ではなく、地肌があらわれて、「生きている」とはいがたい状態になっています。

山野草と景色も、もとかくらら、十年後には、今ある場所が見れなくなるかもしれません。たった一枚の足真から、たった一人の行動からの変化を知りえたら、少しばかり、花の保真で喜べなくなりそうです。これも「受け入れる」で「求めない」のがいいのでしょうか。求めていくのに…。